

956-25

昭和55年度 自 昭和55年4月 1日  
至 昭和56年3月31日

事 業 報 告

決 算 報 告 書

財団法人 日本常民文化研究所

956-25

昭和55年度事業報告、決算報告書、並びに損益金処分案は  
次の通りであります。

昭和56年5月31日

財団法人 日本常民文化研究所

理事 河岡武春

” 澁澤雅英

” 杉本行雄

” 二野瓶徳夫

” 山口和雄

監事 小宮山若木

” 野澤邦夫

## 目 次

- (一) 事業報告
- (二) 貸借対照表
- (三) 損益計算書
- (四) 財産目録
- (五) 損益金処分案

## 事業報告

## I 紀年銘民具調査

55年度において文化庁委託による『日本常民文化研究所調査報告』の4年間の事業は本年度で終了した。(「富士講と富士塚」「小正月行事とモノヅクリ」「紀年銘民具」)

本年度は「紀年銘(年号のある民具)」の2年度西日本であった。まず目録篇に収録し得たのは博物館、資料館90館の約600点で、その中には国の重要民俗文化財指定を受けた瀬戸内海歴史民俗資料館(高松市)、京都六波羅密寺、島根県隠岐郷土館、同美保神社のそれが含まれる。これらを通覧すると、従来、民具は年号(製作・購入年次)のわからぬもので、歴史的な位置付けができないという見方が一般であったが、必ずしもそうではなく、ひろく経済史との結びつきも強くなった。ひろく地域研究、今後の民具研究の一方を示す成果と言えよう。

また、絵画資料を活用して、民具にクロノロジーを与える調査—会津農書記載の農具をあわせて現存民具にみる方法も今後の一方法を示し得た。総じて民具研究の方法論が、地域研究を主軸とし、全国的視野において具体化された、千刃扱きの歴史的展開は好モデルを提供した。かつての主産地鳥取県倉吉にはじまり、大阪市場と隣接の播州鍛冶のあり方、即ち非株仲間の農間余業鍛冶が千刃、包丁、鋏、釣針などの生産を担当した。そうして千歯において行商力つまり末端流通の担当者を把握し得た生産地が最後まで残り得たこと、さらに鉄製以前の木・竹の製品、あるいは稲、麦用ないし除虫菊にいたる分化等、瀬戸内海地域・近畿農村の対応など、比較研究の成果がみられた。

さらに西日本篇の特色は唐箕においても見られ、大阪農人橋の京屋製のそれが“近畿型”として、一つの規準に設定された。そして京屋は畿内に販売権を持ち、畿内の外では、構造の一部を替えたものが見られ、それが新製品の場をひろげた。なお、旧藩時の紀年銘を持つもの11点のほか明治期のものを含め集成、考察されたことは民具学の一つの進歩をうかがわせた。

揚水の足踏み水車も京屋の製作にかかり、材料は杉の白味を使い、赤味は唐箕に用いられた。ふいごの側板をはじめ、こうした農器具の材料調整は今後の課題で、大きく吉野林業の成立ないし、山林の伐採、搬出の組織、さらに大阪の工場における製材・乾燥・管理技術など、なお今後を期したい。

最後に、以上の調査研究過程において、民具の作図技術の普及が民具マンスリー・民具研究講座のこれまでの蓄積の中で活用がはかられたことも記録にとどめられるべきであろう。

## II 民具研究講座

本年度の民具研究講座は、第7回目にあたり、初会の会場であった神宮外苑の日本青年館にかえた。民具学方法論、地域研究、また民具調査・整理の実務(博物館学芸員の指導)において、年を追って、一層の普及・向上がみられた。

日本民具学会をはじめ、6つの地域民具学会即ち、北海道・東北、新潟県・東海・近畿・中四国・鹿児島県の連係、協力の実があげられ、アチック・ミュージアム開設以来の素志をほぼ達成したと総括できるかも知れない。

## 貸借対照表

昭和56年3月31日

勘定科目	公益部		収益部		合計	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	107,525				107,525	
普通預金	116,305				116,305	
定期預金	500,000				500,000	
棚卸高			510,000		510,000	
未収入金	2,360,000				2,360,000	
仮払金	4,000,000				4,000,000	
建物	4,714,670				4,714,670	
什器備品	131,288				131,288	
有価証券	26,847,773				26,847,773	
元入金	40,708,763				40,708,763	
元受金				40,708,763		40,708,763
未払金		2,360,000				2,360,000
預り金		334,656		23,264		357,920
基本金		800,000				800,000
通常財産		32,821,117				32,821,117
出版準備積立金		2,400,000				2,400,000
積立金		43,717,099				43,717,099
繰越損失金			40,177,606		40,177,606	
小計	79,486,324	82,432,872	40,687,606	40,732,027	120,173,930	123,164,899
当期損失	2,946,548		44,421		29,90,969	
合計	82,432,872	82,432,872	40,732,027	40,732,027	123,164,899	123,164,899



956-25

損 益 計 算 書

昭和56年3月31日

勘定科目	公 益 部		収 益 部		合 計	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
民具マンスリー	2,080,010	2,144,096			2,080,010	2,144,096
民具研究講座	515,410	451,000			515,410	451,000
文化庁委託調査	4,000,000	4,000,000			4,000,000	4,000,000
印 税 収 入				390,000		390,000
書 籍 売 上				281,670		281,670
受取配当金		250,372				250,372
受取利息		1,837,352				1,837,352
財産処分収入		985,651				985,651
雑 収 入		3,590				3,590
前期損益修正益		3,375,951				3,375,951
期首棚卸高			660,000		660,000	
期末棚卸高				510,000		510,000
給 料 手 当	4,039,200		280,800		4,320,000	
会 合 費	25,671		1,784		27,455	
旅 費 交 通 費	192,769		13,401		206,170	
委託調査負担金	1,000,000				1,000,000	
消 耗 品 費	172,954		12,023		184,977	
通 信 費	452,585		31,463		484,048	
水道光熱費	82,567		5,836		88,403	
資料蒐集費	766,242		53,268		819,510	

退 職 金	935,000		65,000		1,000,000	
租 税 公 課	30,240		2,102		32,342	
印 刷 費	182,699		12,701		195,400	
減 価 償 却 費	257,481				257,481	
雑 費	1,261,732		87,713		1,349,445	
小 計	15,994,560	13,048,012	1,226,091	1,181,670	17,220,651	14,229,682
当 期 損 失		2,946,548		44,421		2,990,969
合 計	15,994,560	15,994,560	1,226,091	1,226,091	17,220,651	17,220,651



財 産 目 録

公 益 部

現 金	現 金 手許有高	20,285	
	振替貯金 郵 政 省	87,240	
	計	107,525	
預 金	普通預金 協和銀行 麻布支店	116,305	
	定期預金 第一勧業銀行銀座支店	500,000	
	計	616,305	
未収入金	55年度国庫補助金(文化庁)	2,360,000	
仮払金	河 岡 武 春	4,000,000	
建 物	秀和第2三田綱町レジデンス813号室	4,714,670	
什器備品	事務机、椅子、書架	15,137	
	キャビネット	2,955	
	テープレコーダー	1,100	
	ゼロックス	57,078	
	会議用机、椅子、書架	20,529	
	書架、脇机	25,649	
	スライド機	8,840	
	計	131,288	
	有価証券	清水建設(株) 8,695株	550,400
		東京電力(株) 1,462株	886,235
新日本製鉄(株) 6,000株		889,200	
山一公社債投信 1,613口		16,171,938	
山一ファミリーファンド 300口		3,150,000	
山一株式ファンド 500口		5,200,000	
計		26,847,773	

未払金	文化庁委託調査費用	2,360,000
預り金	源泉税他	334,656
元入金	収益部へ元入	40,708,763
基本金	定期預金 第一勧業銀行銀座支店	500,000
	清水建設(株) 2,000株	300,000
	計	800,000

出版準備積立金 既往年度益金より積立 2,400,000

積立金 既往年度より繰越 43,717,099

収 益 部

棚卸高	既往刊行図書残部	510,000
元受金	公益部より元受	40,708,763
預り金	源泉所得税	23,264
繰越損失金	既往年度より繰越	40,177,606



損失金処分案

昭和56年5月31日

公益部

当期損失金 2,975,173

処分額

積立金取崩し 2,975,173 0

収益部

当期損失金 44,421

処分額

繰越損失金へ繰入 44,421 0

決算報告書、諸帳簿を照合し相違ないことを証明します。

昭和56年5月31日

小官山 若木

野澤 邦夫

民具研究講座収支計算書

自昭和55年9月14日 至昭和55年9月15日

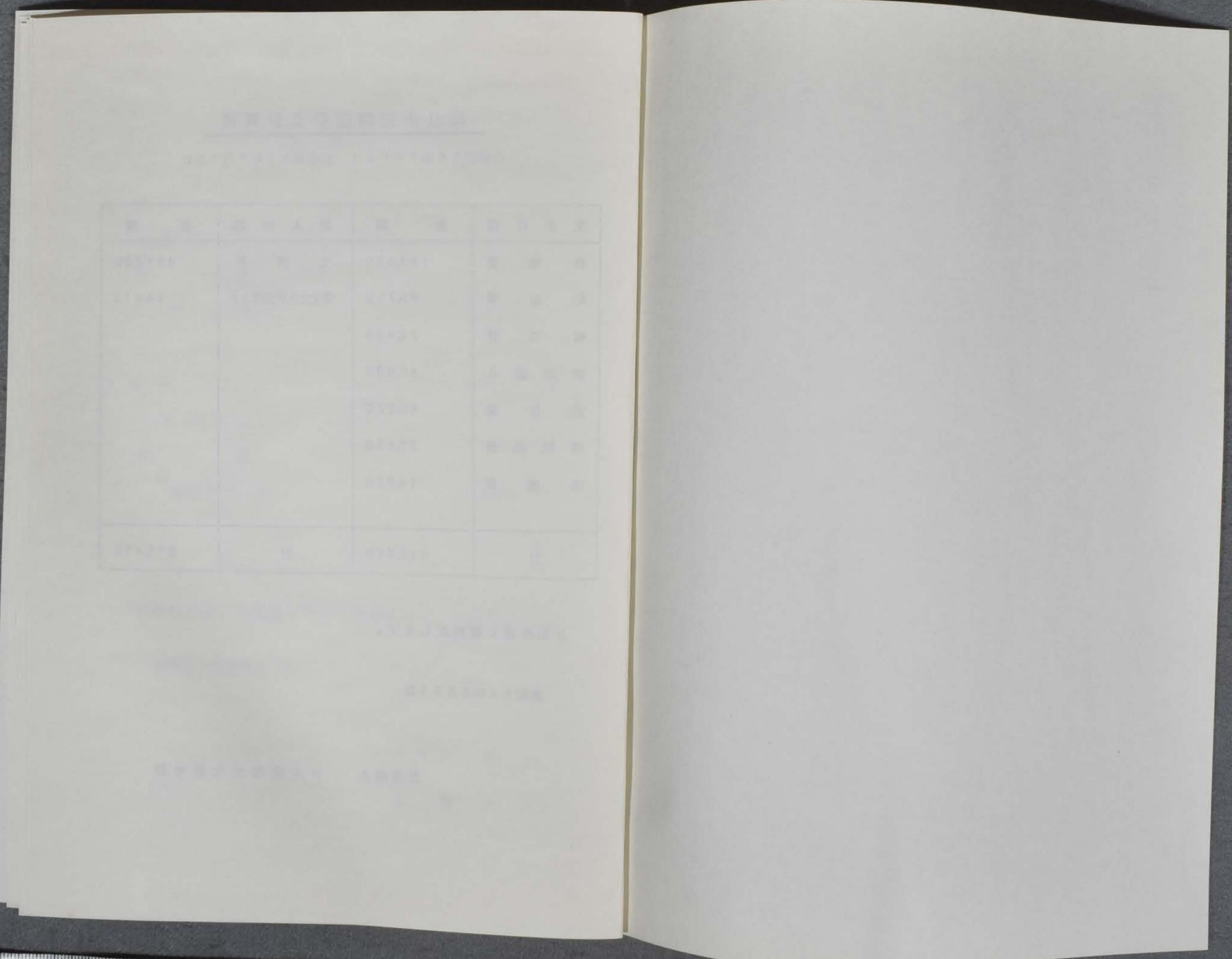
支出の部	金額	収入の部	金額
会場費	194,300	受講料	451,000
印刷費	90,700	常民文化研究所より	64,410
宿泊費	72,400		
講師謝礼	60,000		
通信費	40,270		
消耗品費	22,630		
諸雑費	16,900		
計	515,410	計	515,410

上記の通り報告致します。

昭和56年3月31日

財団法人 日本常民文化研究所

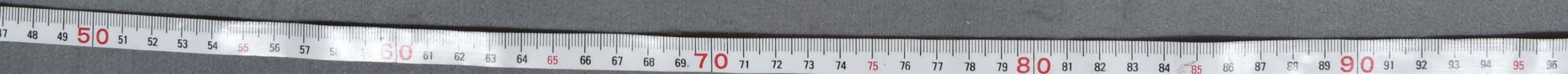
956-25



第	名	姓	名	姓	名	姓
1	...	...	...	...	...	...
2	...	...	...	...	...	...
3	...	...	...	...	...	...
4	...	...	...	...	...	...
5	...	...	...	...	...	...
6	...	...	...	...	...	...
7	...	...	...	...	...	...
8	...	...	...	...	...	...
9	...	...	...	...	...	...
10	...	...	...	...	...	...



956-25



3

昭和五十六年度

第一回評議員會議事録

一、日時 昭和五十六年十月八日午後七時三十分—八時三十分

二、場所 国際文化会館 港区六本木五丁目二—一六

三、出席者 網野善彦 江田豊 河岡武春 毛原清

小宮山若木 遠沢雅英 二野瓶徳夫 森原直之

山口和雄 市川信次 遠藤武 佐々木繁弥 杉本行雄

竹内利美 野沢邦夫 連水 融 山田明男

計十七名

四、評事要領

山口和雄理事長開会を宣し、出席者定数に達した旨を述べ、

評事録署名人に遠沢雅英、河岡武春両評議員を指名し、承認を得て評事に入らる。

○第一号評事 昭和五十六年度事業報告及び決算承認の件

まず河岡常務理事が、五月三十日、小宮山若木、野沢邦夫両監事より監査報告を受けた旨を述べ、ついで事業報告から収支決算についての報告をなし、全員異議なく承認した。

○第二号評事 昭和五十六年度予算及び事業計画承認の件

ついで昭和五十六年度予算及び事業計画についての報告し、全員異議なく承認した。

○評事第三号 理事選出の件

議長は本年一月三十日に宮本吉一理事が病気で欠席したため、従来の理事五名の再選を以て加ったところ、全員異議なく承認した。あわせて新任の理事の職務の引き継ぎを十月二十二日とす

理事 河岡武春 理事 遠沢雅英

理事 杉本行雄 理事 二野瓶徳夫

理事 山口和雄

このことと議決を以て。

評議員の出席状況  
評議員の出席状況  
評議員の出席状況

556.6.30 に 11 期 満了 進行 17.8.27

○ 第四号 評定、監事選任の件

つづいて監事も現職の小宮山若木、野沢邦夫両監事の再任を  
お認めし、その旨を認り、全員の承認を得た。

○ 第五号 評定 研究所の神奈川大学接管にともない財団解散の件  
評長より神奈川大学との交渉の経過報告があり、別紙(一)頁  
書の内容をばる財団は解散し、事業の一切を神奈川大学に移管  
することにして、百圓程の金あり、別紙(二)「解散理由書」(葉)  
とこれに全員の承認した。

○ 第六号 評定 清算人の選任 財団解散にともない清算人は  
理事全員にあり、このこととし、全員の承認し承認した。なお、  
清算人代表には河岡理事をあらわすことになった。



2

昭和五十六年

第一回理事令議事録

一日時 昭和五十六年六月一日

二場所 国際文化会館

三出席者 理事 河岡武春 理事 滝澤雅英

〃 〃 二野龍徳夫 〃 山口和雄

委任状によるもの

杉本行雄

四、議事要領

河岡常務理事より、まず議長に山口和雄氏を推したい旨を

はかり賛成を得た。山口議長開会を宣し、出席者定数

に達したと目をもち、議事録署名人に二野龍徳夫、河岡



武春河理事を指名し、承認を得、議事に入る。

○第一号 議案 昭和五十五年事業報告 及び決算承認の件

（前号の指しより、河内常務理事が事業報告を述べ、全員承認し承認した。）

Ⅰ 紀年銘民具 本年度は「紀年銘（年子のあり）民具」の西日本

地域で、従来、民具は民俗学一般の資料と同様に非歴史的資料

として扱われていた。しかし、お茶の職人の製作による購入民具のなかには

紀年銘を有するものがあり、製作者・製作地のわかるものがある。

なり見出しの編年の可能となりえた。すなわち西日本の民俗博

物館・資料館にたいするアンケート調査により「紀年銘文」を集め、

さらに第二次調査により「官製・作図資料」を得られ、これを目録

・目録編としてまとめることになった。一方、研究のより一貫地帯

調査を試み、千葉銚治の一中心地であった信取具舎吉銚治と、大

阪市場に近い越中三市銚治の調査資料により、林仲間をたづねた

銚治の生産形態が千葉銚治の特色であり、また、行商を把握する

ことおぼしき研究の条件であり、一方、妻を中心とする木製・竹製干

置り存在形態が見出され、瀬戸内海地域の商品価格である除雪草

への適応も明らかになった。また、唐菓を中心とした紀年銘資料

が集められ、さらに論文資料、古文書などの関連で現在民具の

歴史的地位を可能にするなど、方法的にも進歩がみられ、本

年度の西日本調査により、全国的な展望が可能となったのは

大まかに成果である。

Ⅱ 民具研究講座 本年度は当初祭会が開催された神奈川県

の日本青年館を会場とし、神田にえつて、民具学方法論、地

域研究、また民具調査整理の定例（博物館学委員の指導）

にあり、成果は顕著であった。とくに民具の作図は年子とに交

渉する問題が高まり、全国で唯一の研究場としての役割を

担い、総じて盛況であった。

（前号の指しより、河内常務理事が事業報告を述べ、全員承認し承認した。）

〇 第一子 謝安 昭和五十六年度事業計画及び予算決定の件  
 議長の指名により、河岡吉昭理事が事業計画および収支  
 予算を説明し、全員承認した。  
 〇 第三子 謝安 神奈川大学からの研究所招致申入れに付する討  
 議の件  
 神奈川大学にありて休かたより各研究所を招致し、その活  
 動を促進発展させたいとの意向があったが、最近になって全  
 大常理事会なる心の教授会に正式にその方針が決定され、  
 本年六月五日、理事長および学長から、山口理事長に討し  
 申入れがあった。  
 当財団としては現状のままで研究活動の発展は財団

難な状況なりで今後さうに細部の打合せを行い、条件が  
 折合えば先方より申入れを全面的に受け入れ、所要に応じて  
 財団を解散しその財産および事業の一切を神奈川大学  
 に移管する方向で検討すること全員合意した。

謝安録 署名人に流沢雅英、河岡武春理事を指名し、承認



2

昭和五十六年度

第二日 理事会議事録

一日時 昭和五十六年十月八日 午後六時一七時

二場所 国際文化会館 港区六本木五丁目二一六

三出席者 河岡武春 滝沢雅英 二野瓶徳夫

山口和雄

兼任此に以下の

松本行雄

計五名

四 議事要領

山口理事長開会を宣し、出席者定数に達した旨を述べ、議事録署名人に滝沢雅英、河岡武春理事長を指名し、承認

を得て議事に入る。

○ 第一号 議案 研究所の神奈川大学移管と財団解散の件

議長より神奈川大学との交渉の経過報告があり、別紙(一)資料

書の内容の通り財団は解散し、事業の一切を神奈川大学に移

管することとした旨の議案があり、別紙(二)「解散理由書」(資料)

とともに全席これを承認した。

○ 第二号 議案 疎会財産処分件

財団解散に当たっては別紙(三)財産目録記載の財産より解散の

事務費等を差引いた疎会財産は別紙(四)の通りすべて神奈

川大学に移管することとした旨の議案に対し全席異議な

く承認した。

○ 第三号 議案 役員首に就し退職慰労金贈与の件

議長より河岡常務理事は財団設立より専ら研究員

